今年も活発な質問戦

第25回 市政会議

25周年を迎えた市政会議

市連合婦人会

婦人の社会参加を進め、市政を学習しようーと、南国市連合婦人会（西森律会長、会員約二千六百人）恒例の『市政会議』が二月二十一日、市役所大会議室で開かれました。市政と台所のパイプ役となっている市政会議は今年で二十五回を迎え、伝統ある行事に育ってきました。この日は、婦人会から約五十人、市側から小笠原市長、吉本・浜田両助役、関係課長また、議会から岡崎議長、門田副議長、各常任委員長が出席。婦人会が各地区でアンケート調査した資料をもとに市政全般にわたって討議が行われました。

まず、西森会長が「記念すべき第二十五回市政会議を迎えることができたのは、歴代の市長、執行部、議員の皆さんのご指導、ご協力のたまものです。また歴代の婦人会長、会員の皆さんのなみなみならぬ努力があったからこそと感謝の気持ちでいっぱいです」とあいさつしたあと、小笠原市長が「今日は行政についての要望や質問、患苦をいただける貴重な機会です。空港問題は山を越したが今後、財政再建、同和対策事業に加え教育施設の充実、企業誘致に努力していきたい」とあいさつ。

続いて、市政会議発展に功績のあった岡林政衛さん（西島）、五百蔵貞さん（下野田）、浜田弥芳さん（前浜）の三人の歴代婦人会長に市連合婦人会から感謝状と記念品が贈られました。

この後、婦人会が各地区で調査した市政に対する意見や要望についてのアンケート三百枚あまりを整理したもののなかから三十八項目について、各担当課ごとに質問し、約四時間にわたって熱心な意見交換が行われました。

質問内容も充実し、市政に対する関心の高さがうかがえた

主な質問の内容

○ジェット機の騒音で迷惑している。線引き外の地区での防音措置ができないようであれば、低騒音機の導入を早期にお願いしたい。また、緩衝緑地も含めて空港周辺を早く完全に整備してほしい。

●騒音対策は、科学的根拠によって地域の線引きをし防音工事をしているが、線引き外についてはその措置がされていない。これは現行の制度では難しく、また、市の単独事業ではとてもできない。なお、測定の結果、特に騒音の高い所については、過日も助役らが大阪航空局へ行き線引きの見直しをお願いしてきた。低騒音機の導入は、すぐにとはいかないが徐々に切り替わると思う。

空港周辺の緩衝緑地については、国、県の事業として計画され、六十年度から土地買収することになっている。滑走路の横五十㍍程度は土盛りをして低木を植え、音が外へ漏れないようにするものだ。また、滑走路の両端はあまり土盛りができないので利用緑地として運動場的なものを造って、近隣の市民の憩いの場にする計画だ。

○ごみ問題は市民サイドの問題でもあるが、分別収集の徹底などお願いしたい。

●ルールとマナーを守ってほしいと再三にわたって広報やチラシで訴えてきたが、今後もPRを続けていく。特に婦人の協力を得たい。そして、分別の徹底、収集日時を守る、指定のごみ袋の使用、河川や海岸への不法投棄を絶対しないことの協力をお願いしたい。また、生ごみは焼けにくく燃料費がかさむので、処理できる家庭ではできる限り少なくしてほしい。これが徹底すれば、焼却費が約三千万円安くなり、その金を他の事業へ使うこともできる。

○いじめ問題について、市内の学校での現状は。

●六十年四月から十一月末までに市内各校で指導した件数は、小学校八校で五十四件、中学校三校で二十六件となっている。いじめの理由としては「生意気だ」「自分かってだ」というのが一番多く「動作が鈍い」「不潔だ」「不器用」「勉強ができない」など人間の尊厳を無視したものもみられる。

いじめの手段で一番多いのは「ひやかし」「からかい」次いで「仲間外れ」「無視する」「持ち物を隠す」「暴力」となっており、多様化、陰湿化しているが、本市の場合は比較的軽度のものと捕らえている。先生が早く気づいて、早く対応、指導することが一番大切で、各学校では、投書箱の設置、子供との個別懇談、アンケートの実施などで早く見つけることに全力を挙げている。教育委員会としても市内三カ所に相談所を設置し、いつでも気軽に困った声を聞かせてもらうようにしている。

また、いじめを絶対に許さない学校、学級のムードづくりをしていくことや先生、親たちがいじめを絶対に許さないという気迫を子供たちに示すことが大切だ。

○同和教育推進講座が毎年開かれているが、これを続けて更に学習を深めていく必要があると思う。

●同和教育推進講座は五十七年度から実施しており好評だ。これは、同和問題に対する認識を科学的に捕らえていただくことをねらいとして、各種団体や職場の代表者などに集まってもらい計画的、継続的な学習を進めており今後も続けたい。また、出かける同和教育ということで、年に五十回くらい夜間に各地区へ出向いて懇談会を開いているが参加者が少ない。皆さんの積極的な参加をお願いしたい。

○職員の応対がよくなったとの声も聞かれるが、勤務中に私用で買い物に出かけるなど勤務態度に問題があると、多くの地区から意見が出ている。また、ネーム着用の徹底はどうなっているのか。

●勤務時間中の態度については、過去において指摘された問題がいくつかあったが、ここ数年来、各課長に徹底を図るなど向上されたと確信している。ネーム着用については、今後もなお指導していく。

○市役所の駐車場がいつも満車だ。駐車場を拡張するようだが説明を。

●庁舎東側に約六十台置ける個人の土地があり、これを借りて四月から駐車場にしたい。これで混雑が解消できると思うが、それでも満車になるようなら市役所から二㌔以内の職員については、車以外での通勤方法を考える必要がある。

○南国市は他の市町村より税金が高いと聞いているが。また、滞納者対策はどのようにしているのか。

●県下の九市と近隣の土佐山田町、野市町の税率をみると、市民税については均等割が高知市が二千円、その他は千五百円、所得割は標準税率で全国共通。固定資産税については超過税率で課税している所は窪戸市、土佐市、須崎市、南国市、土佐山田町となっている。

滞納額は六十年三月末で約一億五千万円ある。対策としては、文書や電話での督促、職員の家庭への訪問、差し押さえの予告書の送付などで徴収の努力をしている。

※また議員に対しては▽選挙のときに地区を回るだけでなく普段からもっと市民の声を聞いてほしい▽地元の出身地にこだわらず広い立場と視野に立った活動を▽議員が多すぎはしないか―などの質問が出ました。

それに対し、出席議員からは、非常に厳しい批判をいただき反省している。気持ちを新たにしてやっていきたい。議員定数は地方自治法で規定されており、県下九市の中で削減している市は人口が減少している市だ。南国市は十市のパークタウンや蒲原団地などの建設で人口が増加し、逆に定員増の問題もでてくるのではないかと思うが、定数は増やさず現状維持でやっていくのが南国市にとって一番適当ではないかと思う。議員どおし話をして今後の検討課題としたいと、答えました。

……

質疑終了後の講評では、議員から「まことに的を射た女性ならではの質問が多かった」「台所を守る母親の声を聞かせていただき勉強になった。今後の議会活動に反映させたい」などの声が出ていました。

参加した婦人の声

川村雪子さん（奈路）

五年ぶりに出席しましたが、とても勉強になりました。

昔に比べ婦人からの意見も活発に出るようになり、質問内容も充実してきたように思います。

執行部の答弁も市民会館や学校改築など多くの経費が必要とするものはともかく、婦人の小さな要望について、善処するというような答えではなく真剣に耳を傾けてくれるようになったと思います。

寄せられた意見、要望から

▼職員の適正な配置や事務の簡素化などで定員を削減する。

▼年功序列制度を廃止して、能力主義制度の導入を望む。

▼支所の統合を早くしてほしい。

▼ちり焼却場の改善を含め、将来の計画を研究されたい。

▼犬の放し飼いをやめるような指導を望む。

▼夏季大学を開いてほしい。

▼国際青年年の取り組みの継続を望む。

▼国旗、国歌、祝祭日などの適正な指導を望む。

▼南部地区にも運動公園を造ってほしい。

▼農林業の振興によって過疎化の防止を望む。

▼総合市場を造ってほしい。

▼園芸地帯の排水に万全を期してほしい。

▼市内の端にある地域まで行政の手を差し伸べてほしい。

▼市営住宅建設ができなければ、県営住宅の積極的な導入を望む。

▼裏通りへも街灯をつけてほしい。

▼納税の重要性の徹底を望む。

▼税制の適切な指導を望む。

▼街の生活も農家も同じく夫婦共働きなので、保育所への入所は平等にしてほしい。

▼戸籍、住民登録、印鑑証明は昼休みでも取り扱ってほしい。

▼どの課でも言えるが、市民との応対中に職員どうしがお茶など飲んでいるのは感じが悪い。